

福祉生活病院常任委員会資料

(令和元年10月7日)

【件名】

- 1 第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について
(障がい福祉課) . . . 1
- 2 医療的ケア児等と家族のための大山キャンプについて
(子ども発達支援課) . . . 4
- 3 公立・公的病院等の診療実績の分析結果の公表について
(医療政策課) . . . 5

福祉保健部





第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催結果について

令和元年10月7日
障がい福祉課

1 大会の概要

- (1) 開催日時 令和元年9月29日(日) 午前9時30分から午後4時まで
 (2) 開催場所 とりぎん文化会館 梨花ホール(鳥取市尚徳町101番地5)
 (3) 演技内容 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、コントなどのパフォーマンス
 (4) 出場チーム 予選を通過した15チーム(19校)
 ※うち、田園調布学園高等部が欠場(14チームが演技)
 ※本県からは、鳥取聾学校、米子東高等学校、米子西高等学校の3校が出場
 (5) 来場者数 約2,000人
 (6) 大会結果

| 表彰内容 | チーム名 | 演技区分 | 演技タイトル | 得点 |
|-------------|-----------------------|------------|------------------------|------|
| 優勝 | 真和志高等学校(沖縄県) | ダンス・演劇 | ラップ THE オキナワ | 273点 |
| 準優勝 | 奈良県立ろう学校(奈良県) | 演劇 | ユールネバーウォークアローン | 266点 |
| 第3位 | 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園(埼玉県) | 演劇、ポエム、コント | 手話は命～ろう者の星と聴者の星～ | 264点 |
| 審査員特別賞 | 田鶴浜高等学校(石川県) | 歌唱・演劇 | 全てを笑顔で守りたい | — |
| 全日本ろうあ連盟賞 | 聖心学園中等教育学校(奈良県) | ダンス | This Is Me ～すべての人へ～ | — |
| 日本財団賞 | 米子東高等学校(鳥取県) | ダンス・演劇 | 結び ～HANDSIGN～ | — |
| 鳥取県聴覚障害者協会賞 | 熊本聾学校(熊本県) | 演劇 | レッツスポーツ 世界は一つ! | — |

※上記以外の本大会出場チームに、手話パフォーマンス奨励賞を授与

《優勝：真和志高等学校》



《日本財団賞：米子東高等学校》

《審査方法》(6名の審査員の審査得点を合計。(最大300点))

| 種別 | 人数 | 審査項目 | 配点(一人当たり) |
|---------|----|----------------|------------|
| ろうの審査員 | 3名 | ○手話の正確性・分かりやすさ | 30点 |
| | | ○演出力・パフォーマンス度 | 30点(合計60点) |
| 聞こえる審査員 | 3名 | ○演出力・パフォーマンス度 | 40点 |

-1-

(7) 出演者等

| 内 容 | 氏名 (敬称略) | よみ | 所属等 |
|-----------|----------|------------|--------------------------|
| 総合司会 | 原田 裕和 | はらだ ひろかず | NHK鳥取放送局チーフアナウンサー |
| 演技司会 | 早瀬 憲太郎 | はやせ けんたろう | 学習塾「早瀬道場」塾長 |
| | 河口 真里奈 | かわぐち まりな | 鳥取敬愛高等学校3年 |
| 審査員長 | 庄崎 隆志 | しょうざき たかし | 演出家・俳優 |
| 審査員 | 小中 栄一 | こなか えいいち | 全日本ろうあ連盟副理事長 |
| | 廣川 麻子 | ひろかわ あさこ | NPO 法人 TA-net 理事長 |
| | 門 秀彦 | かど ひでひこ | 絵かき |
| | 野上 まり | のがみ まり | 福岡ろう劇団博多 |
| | 塩野谷 斉 | しおのや ひとし | 鳥取大学地域学部教授 |
| ゲストパフォーマー | 劇団あしたの会 | げきだんあしたのかい | 京都を拠点にろう者と聴者が共に楽しめる演劇を制作 |

(8) 会場内の催し

- あいサポート・マルシェ (障がい福祉サービス事業所による食べ物や雑貨等の販売)
- 鳥取聾学校写真作品展
- 県内高校生による販売コーナー (倉吉農業高等学校、智頭農林高等学校、日野町役場 JK 課)
- 県内高校生による郷土芸能ステージ (しゃんしゃん傘踊り)
- 手話ロボット体験コーナー (追手門学院大手前中・高等学校)
- 手話パフォーマンス甲子園カフェ ○手話パフォーマンス甲子園弁当の販売
- 公式グッズの販売 ○鳥取県聴覚障害者協会コーナー ○協賛企業・団体 PR コーナー など

2 佳子内親王殿下の御臨席について

昨年に引き続き佳子内親王殿下の御臨席を賜り、開会式では、手話の普及に向けた取組に係る関係者の尽力への敬意、これまでも大会に出席するたびに高校生の熱意溢れる舞台に深い感銘を受けられてきたことなどのおことばを賜った。また、全出場チームの演技を御覧いただいた。

また、大会前日に開催した交流会にも御臨席を賜り、出場チームの代表生徒と御歓談いただいた。

《開会式でのおことば》



《交流会での御歓談》



3 その他

- ・大会の様子を手話パフォーマンス甲子園☆動画チャンネル (You Tube) にてライブ配信を行った。
- ・情報保障として、手話通訳、要約筆記、音声ガイドなどの各種サービスを実施した。
- ・障がいのある方、車椅子の方などを対象にホール内前方にハートフル席を設けた。
- ・大会前日にホテルニューオータニ鳥取にて交流会を開催し、出場チーム、出演者、来賓等が参加して交流を深めた。

4 今後の取組

更なる手話言語の理解・普及と共生社会の実現に向けて充実した大会となるよう、大会関係者、来場者等からの御意見を踏まえながら、第7回大会に向けて準備を進めていきたい。

参考

■第6回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 出場チーム

| 演技順 | 都道府県 | 学校名 | 演技の分類 | 演技タイトル | 本大会出場 |
|-----|------|--|---------------|------------------------------|------------|
| 1 | 鳥取県 | <small>よなごにし</small> 米子西高等学校 | ダンス・書道パフォーマンス | 福笑い～私たちの共通言語は「笑顔」そして「手話」～ | 初 |
| 2 | 広島県 | <small>せいしん</small> ノートルダム清心高等学校 <small>ひろしまみなみ</small> 広島南特別支援学校 | 歌唱 | 僕らの光で輝く | 3回目 2回目 |
| 3 | 北海道 | <small>ひびいせい</small> 美唄聖華高等学校 | 歌唱 | 実習前の帰り道 ～夢の種を歌に乗せて～ | 初 |
| 4 | 鳥取県 | <small>とっとり</small> 鳥取聾学校 | 演劇 | 一期一会～あれから6年～ | 4回目 |
| 5 | 東京都 | <small>でんえんちようふ</small> 田園調布学園高等部 (欠場) | 歌唱・学校紹介 | もう一つの言葉を使って～ たった一人の部活だけだ～ | 初 |
| 6 | 愛媛県 | <small>さいび</small> 済美高等学校 <small>まつやまろう</small> 松山聾学校 | 歌唱・ダンス・演劇 | つなぐ | 2回目 初 |
| 7 | 山梨県 | <small>みのぶさん</small> 身延山高等学校 <small>ふじがくえん</small> 富士学苑高等学校 | 歌唱・ダンス・演劇 | 大好きなおばあちゃんへ | 3回目 初 |
| 8 | 奈良県 | <small>せいしん</small> 聖心学園中等教育学校 | ダンス | This Is Me ～すべての人へ～ | 4回目 |
| 9 | 埼玉県 | <small>さいたまけんりつ</small> 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 | 演劇・ポエム・コント | 手話は命～ろう者の星と聴者の星～ | 初 |
| 10 | 石川県 | <small>たつるはま</small> 田鶴浜高等学校 | 歌唱・演劇 | 全てを笑顔で守りたい | 6回目 |
| 11 | 熊本県 | <small>くまもとろう</small> 熊本聾学校 | 演劇 | レッツスポーツ 世界は一つ! | 5回目 |
| 12 | 奈良県 | <small>ならけんりつ</small> 奈良県立ろう学校 | 演劇 | ユールネバーウォークアローン | 6回目 |
| 13 | 沖縄県 | <small>まわし</small> 真和志高等学校 | ダンス・演劇 | ラップ THE オキナワ | 6回目 |
| 14 | 鳥取県 | <small>よなごひがし</small> 米子東高等学校 | ダンス・演劇 | 結び～HANDSIGN～ | 2回目 |
| 15 | 東京都 | <small>おおいざみさくら</small> 大泉桜高等学校 <small>たちかわ</small> 立川ろう学校 | 演劇 | 君の手で何を変える? | 5回目 4回目 |

医療的ケア児等と家族のための大山キャンプについて

令和元年10月7日
子ども発達支援課

日常生活において制約を受けることが多い医療的ケア児とその家族を対象に、新たな経験や家族の交流の場として、また日常的に子どもの介護に多くの時間を費やしている保護者の負担軽減を図り、併せて、医療的ケア児等に対する県民の理解啓発を図ることを目的に、大山キャンプを開催しました。

※財源の一部に、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用しています。

(寄附額1,531千円、寄附者70名)

- 1 日 時 令和元年9月21日(土)から23日(月・祝) (2泊3日)
- 2 場 所 ROYAL HOTEL DAISEN (西伯郡伯耆町丸山中祖1647-13)
- 3 参加者 医療的ケア児7名、兄弟姉妹4名、保護者9名 (家族20名)
医師5名、看護師13名、理学療法士7名、ボランティア19名、スタッフ11名
(支援者55名) 【計75名】
- 4 内 容 <1日目> オリエンテーション、室内遊び、花火、温泉入浴、保護者懇親会 等
<2日目> 運動会(大玉転がし、シッティングバレー、ポッチャ)
バルーンアート、音楽会、温泉入浴 等
- 5 委託先 コラボレーション・コンサルティング合同会社(米子市末広町191)
- 6 医療面に関する助言者
博愛こども発達・在宅支援クリニック 玉崎章子院長(米子市両三柳1880)
- 7 支援者の派遣協力医療機関
鳥取大学医学部附属病院、鳥取県看護協会、鳥取県理学療法士会、きずな訪問看護リハビリステーション、訪問看護ステーションおざき、訪問看護リハビリステーションくらよし
- 8 成 果
○参加した医療的ケア児にとっては、初めての場所でいろいろな人と出会い、様々な活動を体験することができた。
○家族にとっては、同じ思いを共有する場を得て、家族同士のネットワークを構築する機会となった。
○クラウドファンディングの活用により、本取組を県内はもとより広く全国にPRすることができた。



風船バレーに大興奮



バルーンアートに興味津々

公立・公的病院等の診療実績の分析結果の公表について

令和元年10月7日
医療政策課

このたび、国において、公立、公的医療機関でなければ担えない診療に重点化されているか等を確認し、病床機能の分化及び連携の推進等、地域医療構想の実現に必要な協議を促すことを目的に全国の医療機関の診療実績データの分析が行われ、その結果が公表されましたので報告します。

1 鳥取県で国から再検証要請医療機関として選定された病院

(1) A基準（診療実績が少ない）に該当した医療機関

- ・岩美町国民健康保険岩美病院（東部）
- ・日南町国民健康保険日南病院（西部）
- ・南部町国民健康保険西伯病院（西部）

(2) B基準（類似かつ近接）に該当した医療機関

- ・鳥取県済生会境港総合病院（西部）

2 国の分析方法

平成29年度病床機能報告を基に次のAとBの2つの観点から分析が行われ、いずれか一方に該当する医療機関が要検証対象医療機関として公表。

A：診療実績等

全国の構想区域を人口規模に応じて5つに分け、がん、心筋梗塞など9つの領域の診療実績等について分析（人口規模の区分が同じ区域の医療機関において、領域全ての診療実績が下位1/3に該当）

B：類似かつ近接

がん等6つの領域について、構想区域内に一定数以上の診療実績を有する医療機関が2つ以上あり、かつ、お互いの所在地が近接しているかを分析

3 これまでの対応等

| | |
|-----------|--|
| 令和元年9月26日 | 国の地域医療構想ワーキンググループへの意見書提出 |
| 27日 | 自治体立病院を考える議員の会から知事への要望書提出 国（総務省）から国と地方の協議の場の設置に係る通知 国（厚生労働省）からコメント発表 |
| 10月4日 | 国と地方の協議の場の設置 |

国からは、再検証要請対象医療機関を有する構想区域において協議し、遅くとも令和2年9月末（再編統合を伴わない場合は令和2年3月末）までに結論を得ることが求められており、国から示されたデータのほか、地域の実情等も踏まえて、今後、各圏域の地域医療構想調整会議で総合的に議論を進めていく。

【参考】地域医療構想に係る厚生労働省医政局からのコメント（9月27日）（抜粋）

- ・今回の取組は、一定の条件を設定して急性期機能等に関する医療機能について分析し、各医療機関が担う急性期機能やそのために必要な病床数等について再検証をお願いするものです。したがって、必ずしも医療機関そのものの統廃合を決めるものではありません。また、病院が将来担うべき役割や、それに必要なダウンサイジング・機能分化等の方向性を機械的に決めるものではありません。
- ・今回の分析だけでは判断しえない診療領域や地域の実情に関する知見も補いながら、地域医療構想調整会議の議論を活性化し議論を尽くしていただき、2025年のあるべき姿に向けて必要な医療機能の見直しを行っていただきたいと考えています。その際、ダウンサイジングや機能連携・分化を含む再編統合も視野に議論を進めて頂きたいと考えています。

